

## 「新しい掟」

2018年07月23日

ヨハネの手紙 一 2章7節～11節 愛する者たち、わたしがあなたがたに書いているのは、新しい掟ではなく、あなたがたが初めから受けていた古い掟です。この古い掟とは、あなたがたが既に聞いたことのある言葉です。しかし、わたしは新しい掟として書いています。そのことは、イエスにとってもあなたがたにとっても真実です。闇が去って、既にまことの光が輝いているからです。「光の中にいる」と言いながら、兄弟を憎む者は、今もなお闇の中にいます。兄弟を愛する人は、いつも光の中におり、その人にはつまずきがありません。しかし、兄弟を憎む者は闇の中におり、闇の中を歩み、自分がどこへ行くかを知りません。闇がこの人の目を見えなくしたからです。

著者は「わたしの子たちよ」と呼びかけていたが、今度は「愛する者たち」と呼びかけ、諭している。「ヨハネ教団」を指導する立場にある人が、教団内の若い人々に篤い思いで信仰を勧めようとして書いている。

「わたしがあなたがたに書いているのは、新しい掟ではなく、あなたがたが初めから受けていた古い掟です。この古い掟とは、あなたがたが既に聞いたことのある言葉です。」私が書いているのは、新しい掟ではなく、あなたがたが初めから受けていた、既に聞いたことのある古い掟である。「古い掟」とは、例えば、レビ記19章18節の「自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である」という掟であろう。イスラエルの民は神に祝福された者として、同胞を互いに愛し合うという掟が基本であった。イスラエルに敵対する者たちを「必ず滅ぼし尽くさねばならない」という民族主義的な言葉がある。「しかし、わたしは新しい掟として書いています。そのことは、イエスにとってもあなたがたにとっても真実です」と、主イエスにとってもあなたがたのとっても真実な新しい掟を書くとき付け加えている。ヨハネ福音書15章12節で、主イエスは、「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。わたしの命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である」と語っている。主イエスが命を懸けて弟子たちを愛し貫かれたように、互いに愛し合いなさいと教えている。また、マタイ福音書5章43節、44節で、主イエスは、「あなたがたも聞いておるとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」と語っている。著者は、主イエスが自分を裏切る弟子たちを愛されたように、敵対する者をも愛しなさいという新しい掟を説いている。

この新しい真実な掟が与えられたから、「闇が去って、既にまことの光が輝いているからです」と、光の中にいることを喜んでいいる。「兄弟を愛する人は、いつも光の中におり、その人にはつまずきがありません。」隣人と愛し合うことが、主イエスの光を受け、光の中を歩むことで、そこにはつまずきがない。だから逆に、「『光の中にいる』と言いながら、兄弟を憎む者は、今もなお闇の中にいます。」「兄弟を憎む者は闇の中におり、闇の中を歩み、自分がどこへ行くかを知りません。闇がこの人の目を見えなくしたからです」と言う。信仰は自明なことではない。光の中を歩んでいるつもりでも、心ならずも、闇の中に埋没してしまう。「愛」か「憎む」かによって、光と闇に分かたれる。「愛する者たちよ」、新しい掟に従い、光の中を歩みなさいと勧めている。